

[TPN水和剤]

農林水産省登録 第21759号

性状: 類白色水和性粘稠懸濁液体

毒性: 普通物

危険物: -

有効年限: 5年

包装: 250 ml × 40、500 ml × 20

STダコニール 1000

有効成分: TPN (PRTR・1種) …40.0%



ダコニールは㈱エス・ディー・エス バイオテックの登録商標

こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農カサイトに掲載されている本剤の新しい情報がご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

[適用と使用方法]

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法	
りんご	斑点落葉病 モニリア病・黒星病	1000倍	200~700ℓ	45日前	3回	散布	
なし	黒斑病・黒星病				本剤: 3回 TPN: 3回 (休眠期は1回)		
もも ネクタリン	灰星病・黒星病				6回		
いちじく	疫病・黒葉枯病・黒かび病 さび病	2000倍		前日	2回		
キウイフルーツ	果実軟腐病 すす斑病	500~1000倍 500倍		60日前	7回		
マルメロ	ごま色斑点病	1000倍		30日前	4回		
かりん	黒点病・ごま色斑点病 白かび斑点病			45日前	3回		
パッション フルーツ	円斑病・疫病			14日前			
ばれいしょ	疫病 夏疫病	500~1000倍		100~300ℓ	7日前		5回
やまのいも	炭疽病・葉渋病 つる枯病	1000倍			30日前		6回
やまのいも (むかご)			45日前				
らっかせい	褐斑病	500倍	14日前		4回		
きゅうり	べと病・炭疽病 うどんこ病・灰色かび病 黒星病・褐斑病	1000倍	前日		本剤: 8回 TPN: 10回 (#1)		
にがうり	炭疽病・うどんこ病 べと病・斑点病・つる枯病				4回		
すいか	炭疽病 つる枯病	700倍 700~1000倍	3日前		5回		
メロン	うどんこ病 べと病 つる枯病	700倍 700~1000倍					
かぼちゃ	べと病・白斑病・うどんこ病	1000倍				7日前	3回
トマト	疫病・輪紋病・葉かび病 炭疽病・灰色かび病 すすかび病・うどんこ病 褐色輪紋病		前日		本剤: 4回 TPN: 6回 (#2)		

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
ミニトマト	疫病・輪紋病・葉かび病 炭疽病・灰色かび病 すすかび病・うどんこ病 斑点病・褐色輪紋病	1000 倍	100~300 ℓ	前日	2 回	散布
なす	黒枯病・灰色かび病 すすかび病・うどんこ病				4 回	
キャベツ	べと病・根朽病			14 日前	本剤：2回 TPN：3回 (#3)	
はくさい	白斑病・べと病 黒斑病・白さび病			7 日前	本剤：2回 TPN：3回 (#4)	
ひろしまな	白斑病			28 日前	2 回	
だいこん	白さび病・ワッカ症 白斑病・炭疽病			45 日前	3 回	
なばな類 (なばなを除く)	白さび病・べと病 白斑病・黒斑病			60 日前		
なばな	白さび病・べと病 白斑病・黒斑病			出蕾前但し 21 日前		
たまねぎ	べと病・灰色かび病・白色疫病			7 日前	6 回	
ねぎ	黒斑病・べと病 小菌核腐敗病・葉枯病 さび病			14 日前	本剤：3回 TPN：4回 (土壌灌注は1回、 散布は3回)	
わけぎ					本剤：2回 TPN：3回 (土壌灌注は1回、 散布は2回)	
らっきょう	灰色かび病				3 回	
にんじん	黒葉枯病			7 日前	本剤：5回 TPN：5回 (#5)	
セルリー	斑点病・萎縮炭疽病			21 日前	2 回	
ブロッコリー	べと病			出蕾前但し 21 日前	本剤：2回 TPN：3回 (#6)	
カリフラワー				出蕾前但し 14 日前	3 回	
レタス	灰色かび病			14 日前	本剤：3回 TPN：5回 (土壌灌注は2回、 散布は3回)	
リーフレタス	すそ枯病・べと病					
みつば	べと病			21 日前	2 回	
アスパラガス	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病			根株養成期 但し、 75 日前	3 回	
オクラ	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病	100~400 ℓ	前日	4 回		
しょうが	葉すす病	100~300 ℓ	14 日前	5 回		
みょうが (花穂)	紋枯病・白星病			5 回		
みょうが (茎葉)	葉枯病・紋枯病			4 回		
				☆ 1		

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法				
にんにく	葉枯病・黄斑病 白斑葉枯病・さび病	1000倍	100~300ℓ	7日前	6回	散布				
ゆうがお	炭疽病・べと病 うどんこ病			前日	5回					
うり類 (漬物用、ただし、ゆうがおを除く)	炭疽病・うどんこ病 べと病・つる枯病				4回					
てんさい	褐斑病			30日前	3回					
うど	黒斑病			根株養成期 但し、 200日前	本剤：3回 T P N：4回 (#7)					
ふき	灰色かび病				21日前		2回			
あしたば	黒枯病				30日前		3回			
食用ぎく	褐斑病						4回			
食用ゆり	葉枯病				14日前		6回			
ピーマン	斑点病・うどんこ病・黒枯病 炭疽病				前日		3回			
しそ	斑点病(株枯症)						4回	株元散布		
茶	炭疽病・もち病・輪斑病	700~1000倍	200~400ℓ		摘採 10日前	1回				
	網もち病・褐色円星病	1000倍								
	新梢枯死症 (輪斑病菌による)	700~1000倍								
	黒葉腐病・灰色かび病	700倍								
みしまさいこ	炭疽病	800倍	100~300ℓ	30日前	3回	散布				
パパイヤ		1000倍	200~700ℓ	前日	5回					
ズッキーニ	うどんこ病				3回					
ごぼう			100~300ℓ	5回						
もりあざみ	ステムフィリウム葉枯症			30日前	3回					
しゃくやく (薬用)	うどんこ病		700~1000倍	25~150ℓ	45日前		15回 (1年間に3回)			
たばこ							2回			
ばら	黒星病・斑点病・うどんこ病		1000倍	100~300ℓ	-		6回	散布		
きく	黒斑病・褐斑病・白さび病 斑点病・うどんこ病									
チューリップ	褐色斑点病									
ゆり	葉枯病・斑点病									
りんどう	葉枯病・褐斑病									
花き類・ 観葉植物 (ばら、きく、 チューリップ、 ゆり、りんどう を除く)	斑点病・うどんこ病									
しきみ	炭疽病	200~700ℓ								
つつじ類	褐斑病									
西洋芝 (ペントグラス)	ヘルミントスポリウム葉枯病 葉腐病(ブラウンパッチ)	500~750倍				1ℓ/m ²			発病初期	8回

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
西洋芝 (パーミュー ダグラス)	ヘルミントスポリウム葉枯病 葉腐病(ブラウンパッチ)	500~750倍	1ℓ/m ²	発病初期	8回	散布

#1: 土壌灌注は2回、散布及び常温煙霧及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回

#2: 土壌灌注は2回、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回

#3: は種又は定植前の土壌混和は1回、散布及びエアゾル剤の噴射は合計2回

#4: は種又は定植前の土壌混和は1回、散布は2回

#5: 種子への吹き付け処理は1回

#6: 土壌灌注は1回、散布は2回

#7: 散布は3回、根株瞬間浸漬は1回

☆1: みょうが(花穂)の14日前但し花穂を収穫しない場合は開花期終了まで

●土壌灌注として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾブス菌)	500~1000倍	育苗箱** 1箱当り500ml	は種時から 緑化期 但し、は種 14日後まで	2回	
		1000~2000倍	育苗箱** 1箱当り1ℓ			
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	3ℓ/m ²	は種時又は 活着後 但し定植 14日後まで	本剤: 2回 TPN: 10回 (#1)	
トマト						
みずな	立枯病			は種時	1回	
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	0.5ℓ/m ²	出芽揃い 後(出芽 3日後~ 10日後 まで)	本剤: 1回 TPN: 4回 (土壌灌注 は1回、 散布は3回)	土壌灌注
			セル成型育苗 トレイ1箱ま たはペーパー ポット1冊(30 ×60cm、使用 土壌約5ℓ) 当たり0.5ℓ			
わけぎ			0.5ℓ/m ²		本剤: 1回 TPN: 3回 (土壌灌注 は1回、 散布は2回)	
ブロッコリー	根こぶ病	1000倍	3ℓ/m ²	定植時	本剤: 1回 TPN: 3回 (#2)	
レタス	ビッグベイン病		1.5~3ℓ /m ²	42日前	本剤: 2回 TPN: 5回 (土壌灌注 は2回、 散布は3回)	

育苗箱**: 30×60×3cm、使用土壌約5ℓ

#1: 土壌灌注は2回、散布及び常温煙霧及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回

#2: 土壌灌注は1回、散布は2回

#3: 土壌灌注は2回、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回

●種子消毒として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
にんじん	黒葉枯病	12倍	乾燥種子 1kg当り 60ml	は種前	本剤：1回 TPN：5回 (種子への吹き付け処理は1回)	吹き付け処理 (種子消毒機 使用)

●常温煙霧として使う場合

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
きゅうり	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	べと病	33倍	10ℓ	前日	本剤：8回 TPN：10回 (#1)	常温煙霧
なす		うどんこ病					

#1：土壌灌注は2回、散布及び常温煙霧及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計8回



効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 使用直前に、容器をよく振る。
- 石灰硫黄合剤との混用はさける。
- ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加える。
- 稲(箱育苗)に使用する場合、次の事項に注意する。
 - 緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意する。
 - 育苗箱から希釈液が漏出しないように注意する。
- りんごに使用する場合、次の事項に注意する。
 - ゴールデンの後代品種(つがる、世界一、ジョナゴールド等)には、葉に薬害を生じるので使用しない。
 - 本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花後20日間は散布しない。
- なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には葉に薬害を生じるので使用しない。また、二十世紀であっても7月以前に使用すると葉に薬害を生じるので7月以降に使用する。
- 有袋栽培のもの場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがあるのでさける。
- いちじくに使用する場合、果実に薬害が発生するおそれがあるので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさける。
- ねぎ及びわけぎに土壌灌注として使う場合、は種時から出芽直後の処理においては生育抑制のおそれがあるため注意する。
- レタスに使用する場合、生育遅延のおそれがあるので高温期の灌注はさける。
- しそに使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、葉にかからないように株元に散布する。
- 常温煙霧として使用する場合は、次の事項に注意する。
 - 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
 - 煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど、煙霧が作物体に直接当たらないようにする。

○作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉する。

- 花き類に使用する場合、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさける。
- 花き類に使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、収穫間際の散布はさける。
- 芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に薬害（黄変または褐変）を生じることがあるので注意する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



安全使用上の注意



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 誤飲などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意する。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。

作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らない。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。
- 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。
- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

12 頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－G も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

- 広範囲の病害に有効です。
- 発売以来耐性菌の出現事例は確認されていません。
- 薬液調製が容易です：水中分散性・懸濁性にすぐれていますので、所定量を水中に入れ攪拌すれば速やかに安定した散布液が出来ます。